

学校教育目標	はつらつとして、伸びる子、強い子、優しい子の育成
育成を目指す資質・能力	活用力、妥当解(最適解・納得解)を共創する力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・各学年の単元末テスト正答率60%以下は、1年生国算ともに0%、2年生国算ともに2%、3年生国算ともに1%、理0%、4年生国算理ともに0%、5年生国2%、算4%、理0%、6年生国3%、算9%、理6%であった。そのうち、思・判・表を見ると、目標値80%に対し5年算数が54.5%の達成率で大きく下回った。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 県学力調査、全国学力・学習状況調査の結果から、全体的には高い正答率であったが、個別にみると、学力の定着に個人差が見受けられる。また、問題文と選択肢の関連の読み取り等、問題文を正しく解釈できていないための誤答があった。さらには、5年も6年も各教科で記述問題の正答率が低い傾向にあった。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 1学期の振り返りから、授業中、自分の考えを進んで発表(友達に伝える)している児童78%、友達と話し合うことでよりよい考えをもつことができた児童89%であった。自分の考えをもつても、それを友達や学級全体に伝えないままの児童がいる。多くの児童が自分の考えをもつことができているのに対し、それを伝えたり発表したりする児童が少ないことに課題がある。しかし友達と話すことの意義は感じている様子が伺える。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○教職員アンケート「自己決定の場を与える授業の工夫」100%、「自己存在感を与える授業の工夫」89%、「共感的人間関係を育む授業の工夫」89%であった。『目指す授業像』や『授業改善宣言』を意識して授業をしている」100%であった。 考えをもち、伝え合う場を設定した授業展開を意識してきた。知識・理解など基礎的な学力は定着してきているが、活用力につながる思考・判断・表現の定着にはまだ課題が残っている。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○教職員アンケート「必要に応じて、個別指導・補充学習を行っている」100% ○教職員アンケート「朝の時点での宿題提出率90%以上」は60% ○妥当解の共創を目指し、考えをもち、伝え合う場を設定した授業を展開するには、学習規律を守らせることが必要不可欠であることが明らかであるため、月末に学習規律アンケートを実施して、教職員の共通理解のもと日々の授業を行っている。	

学力に関する達成指標
○単元末テスト(思考・判断・表現)で目標値80点の到達率70%以上。 ○単元末テストの正答率60%未満の児童を10%以下。 ○子どもの読書意欲・読書週間の形成に努める。

